

2012年4月12日
株式会社日立製作所

**統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」
および日立アドバンストサーバ「HA8000 シリーズ」のラインアップを強化**
サーバの仮想化やクラウド基盤に求められる性能を強化した新モデル「BS500」を追加するとともに、
ハイエンドモデル「BS2000」と「HA8000 シリーズ」の性能を強化



「BS500」



「HA8000/RS220-h」

株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明/以下、日立)は、このたび、統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」のラインアップに、サーバの仮想化や、クラウドコンピューティング(クラウド)、大量データを扱うシステムなどのシステム基盤に求められる処理性能や拡張性、運用・管理機能を強化したブレードサーバの新モデル「BS500」を追加するとともに、基幹系システム向けのハイエンドモデル「BS2000」において処理性能とメモリ容量を強化した新製品を開発し、4月13日から販売を開始します。グローバルでは、日立データシステムズ社(Hitachi Data Systems Corporation、本社:米国サンタクララ、CEO:ジャック・ドメ)が、「BS500」を「Hitachi Compute Blade 500」、「BS2000」を「Hitachi Compute Blade 2000」の名称で提供し、グローバル事業展開を加速します。

また、PCサーバである日立アドバンストサーバ「HA8000 シリーズ」のラインアップに、処理性能とメモリ容量を強化したラックマウントサーバの2プロセッサモデル「HA8000/RS220-h」「HA8000/RS210-h」を追加し、4月13日から販売を開始します。

なお、今回の新製品群は、すべて最新のインテル® Xeon® プロセッサ E5-2600 製品ファミリーを採用しています。

近年、クラウドの拡大や、多機能情報端末の急速な普及などを背景として、流通、医療、金融、行政、さらには、エネルギーや水処理、交通をはじめとする社会インフラなど、さまざまな分野で、発生するデータを収集、蓄積、検索、処理、分析して利活用するニーズが拡大しています。そのような中、クラウドなどのシステム基盤であるサーバには、効率的なIT投資を実現する仮想化技術への対応や、集積度の向上、大量データを扱うための処理能力の強化、および広帯域で拡張性の高いネットワークへの対応が求められています。また、クラウドサービスを提供するデータセンターでは、システムの集中による管理範囲の大規模化と、システムの混在によるネットワークの複雑化により、柔軟かつ容易なシステム基盤の構築・運用が求められています。

日立は、ブレードサーバ、ストレージ、ネットワーク装置を、システム管理ソフトウェアで一体化し、システム全体の統合的な運用管理を実現する統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」を2004年に製品化し、企業の基幹系システムからPCサーバの統合まで、幅広い用途向けに提供してきました。

今回新たに製品化した「BS500」は、高信頼な日立独自のサーバ仮想化機構 Virtage(バタージュ)や、障害発生時に予備サーバブレードへ自動的に切り替え、業務への影響を最小限に抑える N+1 コールドスタンバイ機能など、「BladeSymphony」のハイエンドモデル「BS2000」、小型高集積モデル「BS320」の機能や信頼性を引き継ぎながら、イーサネット・ファブリック*1 など、最新のデータセンターネットワークにも対応し、サーバの仮想化や、クラウド、大量データを扱うシステム基盤に求められる処理性能や拡張性、柔軟性、運用性を備えた製品です。同時に、従来から展開している「BS2000」および「HA8000 シリーズ」のラインアップに、処理性能とメモリ容量を大幅に強化した新製品を追加しました。

*1 イーサネット・ファブリック:データセンターにおいて求められる性能や運用性を向上するための特徴をもった、イーサネットのネットワーク技術。

日立は、クラウドや、大量データの利活用、社会インフラなど、幅広い分野のシステム基盤として、新たに展開する「BS500」をはじめとする新製品群を提供し、高効率・高信頼なシステムの柔軟かつ容易な構築・運用を支援します。

■「BladeSymphony」新製品の特長

1. 新モデル「BS500」の特長

(1)高性能・高信頼

「BS500」の標準サーバブレードである「BS520H サーバブレード」は、最新のインテル® Xeon® プロセッサ E5-2600 製品ファミリーの搭載により、優れた処理性能を実現しています。また、高密度なブレード形態でありながら、24 メモリスロットを装備し、最大 512GB のメモリを搭載可能で、仮想化の集約度を向上できます。さらに、障害発生時に予備サーバブレードへ自動的に切り替え、業務への影響を最小限に抑える N+1 コールドスタンバイ機能を備えるなど、高い信頼性を実現しています。

(2)サーバ仮想化およびクラウドへの対応

①用途に応じて選択できるサーバ仮想化環境

サーバの仮想化環境として、高信頼な日立独自のサーバ仮想化機構 Virtage を標準で搭載しています。1 サーバブレードあたり無償で 4LPAR*2 まで、最大 30LPAR まで利用できます。また、VMware® ESX/ESXi、Microsoft® Windows Server® 2008 Hyper-V™、Linux® KVM にも対応し、用途に応じた仮想化環境を利用できます。

*2 LPAR(Logical PARTitioning/Logical PARTition): 仮想化の実現方式の 1 つで、ハードウェア(サーバなど)がもつリソース(プロセッサ、メモリなど)を論理的に複数の区画に分割して割り当てる方式(Logical PARTitioning)、または、その割り当てられた区画(Logical PARTition)。

②サーバ仮想化およびクラウド環境に対応する柔軟なネットワーク機能

サーバの仮想化や、クラウド、大量データを扱うシステム基盤においては、ネットワークをいかにシンプルにして運用負荷を軽減し、同時に処理性能を落とすことなく柔軟な拡張性を実現するかが重要となります。「BS500」は、以下のとおり柔軟性の高いネットワーク機能を備えています。

・Data Center Bridging(DCB)^{*3}への対応

「BS500」は、LANとSAN(Storage Area Network)のI/O(データ入出力)の統合を可能にする通信規格であるDCBをサポートしており、異なる種類のI/Oが混在する環境でも、複数のネットワークアダプターやスイッチを設置する必要がありません。

^{*3} Data Center Bridging(DCB): LAN、SANなどのインタフェースを統合する目的で、IEEE(アイ・トリプル・イー)で標準化されているイーサネットの拡張規格。

・Converged Network Adapter(CNA)^{*4}のポート分割機能

CNAのポート分割機能により、1つの10Gbpsの物理ポートを4つの論理的なポートに分割して利用することが可能なため、ネットワーク装置やストレージとの接続に必要なアダプターの数を抑えることができます。また、分割したポートごとに帯域の制御が行えるため、柔軟なネットワーク構成を実現します。

^{*4} Converged Network Adapter(CNA): DCBを利用するためのLAN/SAN統合型のネットワークアダプター。

・イーサネット・ファブリックへの対応

「BS500」は、新たなネットワーク・アーキテクチャ「イーサネット・ファブリック」に対応した10Gbps DCBスイッチモジュールをサポートしています。従来のイーサネットでは、冗長経路においてループトポロジ^{*5}が発生しないようにスパニング・ツリー^{*6}を設定する必要がありましたが、イーサネット・ファブリックでは、ループトポロジがあってもスパニング・ツリーを設定することなく、複数の経路を有効活用することができ、管理の簡素化とリソースの利用効率向上を実現し、投資効果を高めます。

^{*5} ループトポロジ: LANにおいて、ループ型に接続する接続形態(ループ構成)。ループ構成が存在すると、システムの性能が落ちたり、スイッチの動作が不安定になる問題が発生する。

^{*6} スパニング・ツリー: IEEEで規格化されている、LAN構成においてループ構成を回避するための通信プロトコル。

(3)容易な運用管理

サーバシャーシの設定は、定義ファイルを利用して行うことができます。PC上であらかじめ定義ファイルを作成し、USBメモリやリモートからサーバシャーシにコピーすることで、間違いがなく短時間で設定を行うことが可能です。また、統合WebコンソールのGUI(Graphical User Interface)による直感的な操作で、サーバシャーシの設定や各モジュールの状態確認、ファームウェアの一括配布などが可能です。これらは、リモートコンソール機能により、遠隔地からも操作ができます。

万一の障害発生時には、統合Webコンソール上に障害情報が表示されるため、障害部位を容易に特定することが可能です。また、「BS500」本体においても、障害部位をLEDの点灯で表示し、プロセッサ以外の部品は工具を使わずに交換できるため、短時間でメンテナンスが行えます。

(4)省電力対応

「BS500」は、変換効率94%^{*7}を超える業界最高水準の80 PLUS® Platinum認証を取得した電源モジュールを採用し、電力消費を低減します。また、過剰な冷却を抑制するファン回転数制御や、電源の変換効率を高めるための電源モジュールの稼働台数制御機能、サーバシャーシやブレード単位で上限値を設定することで消費電力を抑えるパワーキャッピング機能など、先進の省電力化機能を備えています。

^{*7} 電源負荷率50%時。

2. ハイエンドモデル「BS2000」標準サーバブレード新製品の特長

「BladeSymphony」のハイエンドモデル「BS2000」の標準サーバブレードのラインアップに、最新のインテル® Xeon® プロセッサ E5-2600 製品ファミリーを採用し、処理性能とメモリ容量を大幅に強化した 2 モデルを追加します。「標準サーバブレード R3 モデル」は、従来モデル比で約 2.3 倍*8 となる最大 5.4TB の内蔵ストレージを搭載可能で、RAID*9 コントローラを標準搭載しているため、内蔵ストレージ容量が求められるシステムに適しています。また、「標準サーバブレード S3 モデル」は、SAN ブート*10 専用モデルです。従来から提供している高性能サーバブレードのラインアップと合わせ、システムに応じた製品を選択できます。

*8 2011 年 2 月発売の「標準サーバブレード A2 モデル」(最大 2.4TB、RAID0 時)と新製品「標準サーバブレード R3 モデル」(最大 5.4TB、RAID0 時)の比較。

*9 RAID(Redundant Array of Inexpensive Disks):複数のハードディスクドライブを組み合わせ、データを分散・冗長化し、記録することで、システムの性能・耐障害性を向上することができる技術。

*10 SAN ブート:サーバ内蔵の HDD ではなく、ファイバーチャネルで接続した外部の SAN ストレージ装置の HDD から起動する機能。

■「HA8000 シリーズ」新製品の特長

「HA8000 シリーズ」のラインアップに、ラックマウントサーバの 2 プロセッサモデル「HA8000/RS220-h」「HA8000/RS210-h」を追加します。新モデルでは、最新のインテル® Xeon® プロセッサ E5-2600 製品ファミリーの採用により、処理性能を向上するとともに、メモリ容量を従来の同等モデル比 2 倍の最大 384GB とし、仮想化システムへの対応を強化しました。また、ストレージ容量について、「HA8000/RS220-h」では従来の同等モデル比 3 倍*11 の最大 14.4TB、「HA8000/RS210-h」では従来の同等モデル比 2 倍*12 の最大 7.2TB に、それぞれ強化しました。さらに、80 PLUS® Platinum 認証を取得した電源を採用するとともに、顧客のシステム構成に最適な電源容量に応じて、2 種類の電源ユニットを選択*13 できるようになり、省電力化への対応を強化しました。

*11 2011 年 5 月発売の「HA8000/RS220」(最大 4.8TB、2.5 型 SAS HDD、RAID0 時)と新製品「HA8000/RS220-h」(最大 14.4TB、2.5 型 SAS ディスク、RAID0 時)の比較。

*12 2011 年 5 月発売の「HA8000/RS210」(最大 3.6TB、2.5 型 SAS HDD、RAID0 時)と新製品「HA8000/RS210-h」(最大 7.2TB、2.5 型 SAS ディスク、RAID0 時)の比較。

*13 プロセッサの構成や搭載数により、選択できる電源ユニットに制限があります。

■本発表に際しての各社からのコメント

インテル株式会社 クラウドコンピューティング事業本部 本部長 平野 浩介

この度の日立製作所による統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」および日立アドバンストサーバ「HA8000 シリーズ」の新製品発表を歓迎いたします。最新のインテル® Xeon® プロセッサ E5 ファミリーは、柔軟で効率的なデータセンターの新基準となる汎用性の高いプロセッサです。グローバルで提供される「BladeSymphony」の新モデル「BS500」をはじめとする今回発表の製品は、インテル® Xeon® プロセッサ E5 ファミリーの搭載により、今後大きな成長が見込まれるビッグデータやクラウド基盤において高い処理能力を発揮するでしょう。インテル® Xeon® プロセッサ E5 ファミリーを搭載する新製品が日立製作所のデータセンター事業およびエンタープライズ顧客への導入を強力に牽引するプラットフォームとなることを期待します。

ブロード コミュニケーションズ システムズ株式会社 代表取締役社長 青葉 雅和

仮想化のさらなる普及やクラウドへの進化は、ネットワークのあり方にも大きな変化を強要しています。今回発表された日立製作所のブレードサーバ新モデル「BS500」に、ブロードの「10Gbps DCBスイッチモジュール」が搭載されることで、これまでにないレベルのシンプルさと柔軟性を備えた「イーサネット・ファブリック」の構築を実現することができます。ブロードは、日立製作所とのパートナーシップをさらに強化し、共に顧客企業におけるシステム基盤全体の効率性向上を支援していく所存です。

■今回発表した製品の価格と出荷時期

製品	仕様概要	価格	出荷時期
BS500	【サーバシャーシ】 ・サーバブレード: 最大 8 ・スイッチモジュール*14: 最大 4 ・マネジメントモジュール: 最大 2 ・電源モジュール: 最大 4 ・外形寸法: W:447×D:791×H:262(mm) (6U) 【サーバブレード】 ・CPU: インテル® Xeon® プロセッサ E5-2600 製品ファミリー 最大 2(16コア) ・メモリ: 最大 512GB ・ストレージ容量: 最大 1.8TB(RAID0)*15 ・サーバ仮想化機構 Virtage 標準搭載	1,119,300 円～ (税抜 1,066,000 円～)	4 月 27 日*14*15
BS2000 標準サーバブレード	【サーバブレード】 ・CPU: インテル® Xeon® プロセッサ E5-2600 製品ファミリー 最大 2(16コア) ・メモリ: 最大 512GB ・ストレージ容量: 最大 5.4TB(RAID0) ・サーバ仮想化機構 Virtage 標準搭載	533,400 円～ (税抜 508,000 円～)	5 月 31 日
HA8000	【HA8000/RS220-h】 ・CPU: インテル® Xeon® プロセッサ E5-2600 製品ファミリー 最大 2(16コア) ・メモリ: 最大 384GB ・ストレージ容量: 最大 14.4TB(RAID0)*15	284,550 円～ (税抜 271,000 円～)	4 月 27 日*15
	【HA8000/RS210-h】 ・CPU: インテル® Xeon® プロセッサ E5-2600 製品ファミリー 最大 2(最大 16コア) ・メモリ: 最大 384GB ・ストレージ容量: 最大 7.2TB(RAID0)*15	264,600 円～ (税抜 252,000 円～)	

*14 「10Gbps DCB スwitchモジュール」の Fibre Channel over Ethernet は 2012 年度内にサポート予定です。

*15 ストレージ容量を最大構成とする場合は、出荷時期は 5 月 31 日からとなります。

■他社商標注記

- ・インテル、Xeon は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ・VMware、ESX、ESXi は、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。
- ・80 PLUS は、米国 Ecos Consulting Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

・その他、記載の会社名、製品名はそれぞれの会社の商標または登録商標です。

■統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」に関するホームページ

<http://www.hitachi.co.jp/bds/>

■日立アドバンスサーバ「HA8000 シリーズ」に関するホームページ

<http://www.hitachi.co.jp/ha8000/>

■本件に関するお問い合わせ先

HCA センター

電話:0120-2580-12(利用時間 9:00～12:00、13:00～17:00(土・日・祝日を除く))

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
